

コレだけは覚えておきたい！観戦ルールブック

1. ゴールボールとは

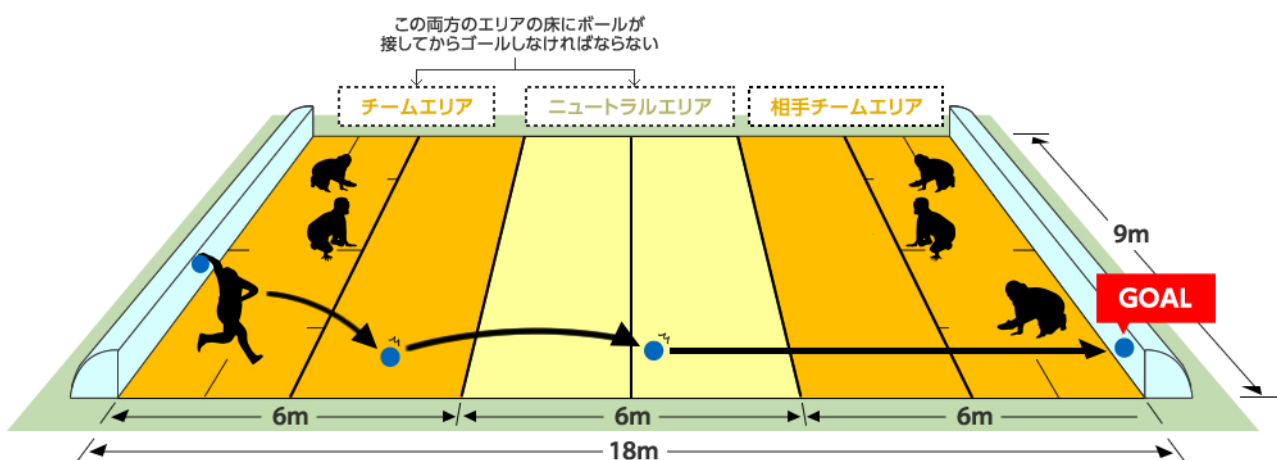
ゴールボールとは、アイシェードをつけて鈴の入ったボールを転がすように投げ合い、得点を競う競技。

男子と女子があり、バレーボールと同じ広さのコートを使用して3対3でプレーする。

チームエリア内で投球し、チームエリアとニュートラルエリアの床にボールが接してからゴールラインを越えて初めて1点が入る。

試合は前後半各12分で行い、最終的に得点数が多いチームの勝利となる。

●得点の入る正しい投球



POINT

視覚で味方や相手を確認できないため、ボールや相手の位置、動きなど自分の感じたことを声で伝え合い、チーム3人で情報共有を図ることが重要。床を叩いて自分の位置を知らせることもある。

2. ゴールボールのルール

アイシェードをつけて鈴の入ったボールをゴールめがけて転がすように投げ合い、1ゴール1点で最終的な得点を競う。

コートはバレーボールと同じ広さで、大きく3つのエリアに分けられている。

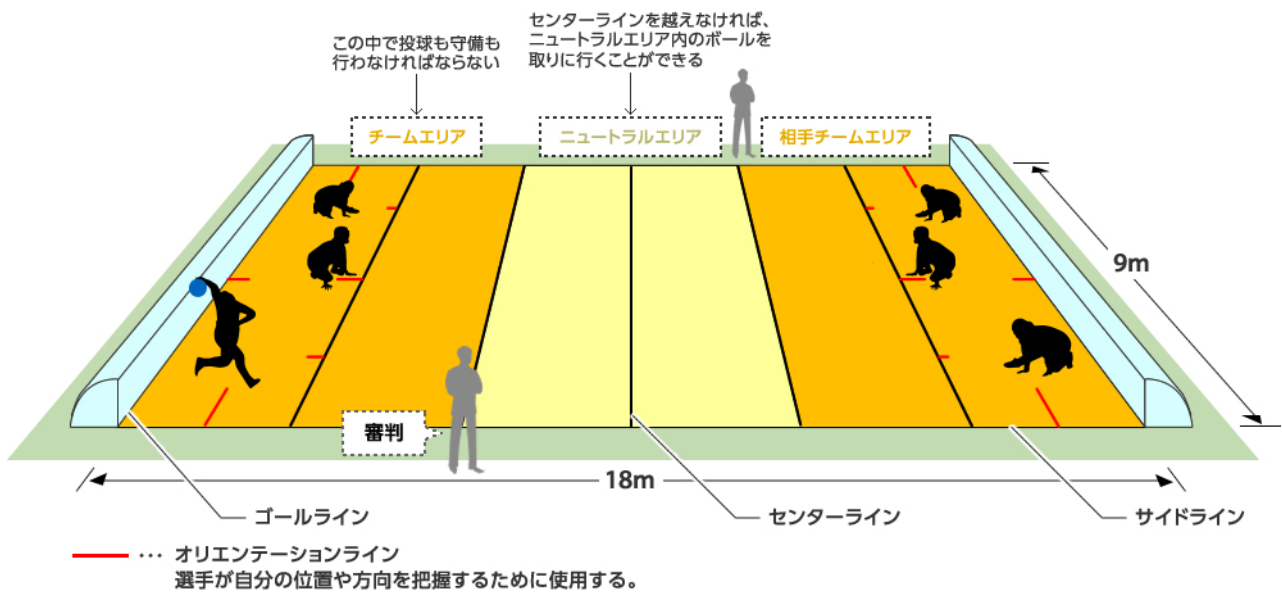
ゲーム開始時の先攻・後攻はコイントスで決定し、その後はボールを持った時点でそのチームが攻撃に転じる。

●コート

広さはバレーボールのコートと同じで、両端に高さ1.3mのゴールがコート幅いっぱいに設置されている。

コートの全てのラインの下には太さ3mmの紐が張っており、選手がその凹凸に触れることで自分

の位置や方向を把握できるようになっている。



● 用具

アイシェード

選手によって視力が異なるため、その差をなくし公平にするためのもの。アイパッチを貼り、更にその上からゴーグル型のアイシェードを着用することで、全員がわずかな光も入らない、視力ゼロの状態プレーすることができる。

ボール

中に鈴が2つ入った、転がると音の出る専用のボール。大きさはバスケットボールとほぼ同じだが、重さは1.25kgとバスケットボールの倍以上。



【競技時間について】

試合は前半後半、各12分の計24分。ハーフタイムは3分。

24分間のレギュラータイムが同点で終了した場合には、前後半各3分の延長戦を行う。

延長戦はゴールデンゴール方式で、どちらかが得点した時点でそのチームの勝利となる。

延長戦でいずれも得点がなかった場合には、サッカーのPKに似た、1対1で投げ合うエクストラスローを全員で行い、決着をつける。



● 試合の流れ

試合は10分45秒の前半と後半の2セットで行われます。

前半は1セット、後半は2セットの合計3セットで行われます。

POINT

タイムアウトは視覚から得た情報をもとに、アドバイスをしっかりもらうことができる貴重な時間。試合状況や、相手の攻撃・守備のパターンを分析して考えられた戦術が選手に伝えられるため、そのあとの数プレーで試合が大きく動くことが多い。コーチの勝負勘と、それを実践する選手のテクニックに注目だ。

【攻撃について】

攻撃側のチームは、相手チームの選手と選手の間や、ゴールポスト際を狙って投球する。投げたボールがチームエリア、ニュートラルエリアの両方の床に接してからゴールに入って初めて得点になる。

投球は、ボールに縦の回転をかけたり、床に叩きつけることで、相手の守備を飛び越えたゴールを狙うほか、

相手を横に揺さぶるように助走と角度を変えて投球したり、カーブやシュートなどの様々な変化球を駆使して相手のディフェンスを崩し、ゴールを狙う。

POINT

投球時に複数の選手が動くことにより、誰がどこから投げてくるのかわりにくくしたり、手渡しのパスで音を立てずにボールを移動させるなどして相手を欺くことも重要な戦術の一つ。

【守備について】

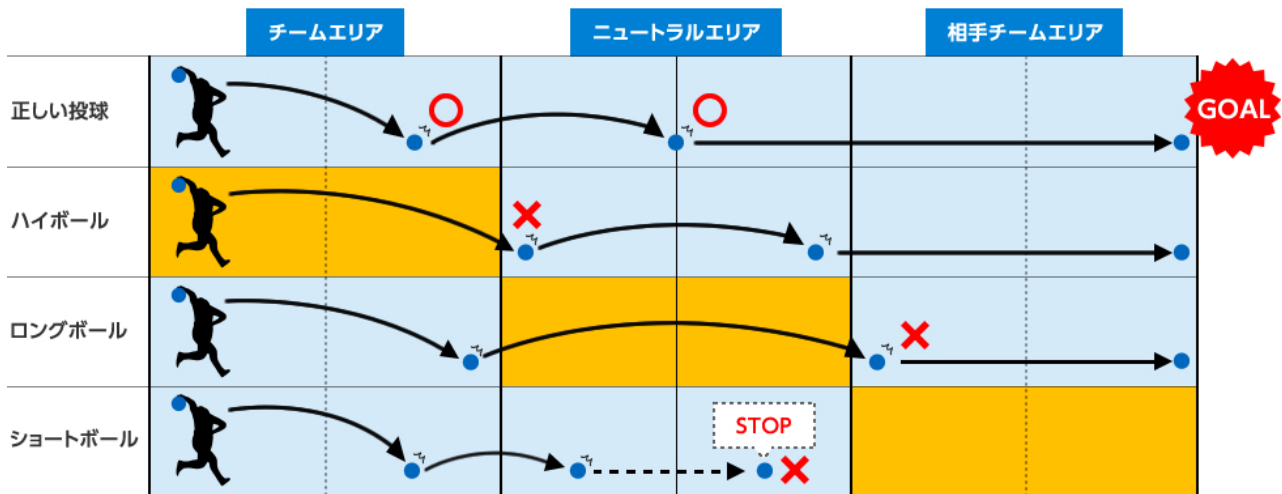
POINT

男子のトップ選手になると投球速度は初速70km/hにもなり、ゴールまで僅か0.6秒で到達することもある。守備側は、その間にどこへ投げられたかを判断し、瞬時に反応することが求められる。できるだけ早く守備から攻撃へ移ることで、相手の守備体制が整う前に攻める方法もあり、まさに守備は攻撃の第一歩と言える。

守備側のチームは、相手の保持するボールの場所を察知・予測して、メンバー同士で互いのポジションを確認しながら、身体全体を使ってゴールを守る。守備側の選手は、ボールに触れてから10秒以内にセンターラインを越えるようにボールを投げ返さなければならない。ボールをはじいてしまうと、確保して返球するまでに時間がかかってしまうため、選手はボールを「止める」守備を意識してプレーする。

【ペナルティスローについて】

主に以下のような反則行為があった場合に、相手チームにペナルティスローが与えられる。
ペナルティスローでは、相手チームが投球を行う際、反則をした選手が1人でゴールを守らなければならない。



●ハイボール

投げたボールが、チームエリアの床に触れなかった場合。

●ロングボール

投げたボールが、チームエリアの床には触れたが、
ニュートラルエリアの床に触れなかった場合。

●ショートボール

投げたボールが、相手のチームエリアに届かなかった場合。

●アイシェード

審判の許可なくアイシェードに触れた場合。

●ノイズ (※)

投球者が投球姿勢に入った瞬間以降に、投球者を含めた攻撃側のチームが守備側の不利になるような音を出した場合。

●10セカンズ (※)

投球されたボールに守備側の選手が初めて触れた時点から、投げ返してセンターラインを越えるまでに10秒以上かかってしまった場合。

●イリーガルコーチング (※)

タイムアウトとハーフタイム、及びラインアウトなどのブレイク中以外に、ベンチにいるコーチや選手などがコート内の選手に指示をした場合。

※…個人ではなくチームのファールとなり、ゴールを守る選手を相手チームが指名することがで

きる。

但しノイズを特定できる場合は個人のファールとなるため、他の反則と同様に、反則をした選手がゴールを守る。

【その他の違反について】

主に以下のような違反があった場合には、ボールの所有権が相手チームへ移る。

●ボールオーバー

守備により跳ね返ったボールがセンターラインを越えた場合、もしくはニュートラルエリアのサイドラインを越えてコート外に出た場合。

●パスアウト

ゲーム中、味方にパスしたボールがサイドラインから外へ出た場合。

●プリマチュアスロー

審判の「プレー！」のコールがかかる前に投球した場合。

3.ゴールボールのクラス分け

国際大会には、障がいのクラス分けの検査を受け、B1からB3のクラスに該当した選手が出場することができる。

ゴールボールでは、アイシェードを着用することで選手の公平を規しているので、そこで分けられたクラスに関わらずチームを編成する。

クラス	区分内容
B1 重度	いわゆる全盲のクラス。 視力は光覚までで、どの距離や方向でも認知はできないもの。
B2	手の形を認知できるものから、視力0.03まで、または視野が5度以下のもの。
B3 軽度	視力は0.03以上の0.1までのものと、視野が5度以上20度以下までのもの。